

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7 年 12 月 20 日

公表:令和 8年 2月 1日

事業所名 ぶどうのプール

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	活動空間や児童が過ごしやすいよう配置している。	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	利用者の状況を把握し、最大限の注意を払っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	入口の段差にすのこを置くなどし、気をつけるよう声かけをしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	個々の目標設定を定期的に立て、共有に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	評価表の結果を基に、改善していくことを心掛けている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	評価表結果をホームページにて開示している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	会議等で、社労士の参加・助言をいただいている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	様々な研修(社内・社外)へ、可能な限り積極的に参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	児童の様子を分析し、保護者に聞き取り、支援方針を話した上で計画をしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	利用者のニーズに合わせ、必要なレベルのものを揃えるように努めている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	事業所の方針に基づき、工夫しながら進めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	それぞれ活動の内容を職員で話し合い、各1カ月ごとに内容を決めていく。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	それぞれ一日の流れを決め、イベント時や変更時は臨機応変に動いていく。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	集団活動・個別活動など様々な活動に取り組んでいる。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	職員間での申し送りをを行い、周知・確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	終業前に報告があれば、報告・共有していく。また、ラインを使用し、常に情報共有をしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	活動記録票等に記載。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	それぞれ6か月ごとに行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	0	保護者と共有しながら進めている。		

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	会議招集があれば、責任者が出席し、対応している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	学校との関係性を築き、家庭とのバランスをとりながら、送迎時などに、共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	6		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	5	相談支援員との情報共有。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	相談支援員との情報共有。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	直接関わりはないが、公園などに行き、同じ空間で過ごす。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3	会議が開かれる場合は、積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	送迎時・電話・LINEで、必要な情報を共有することや様子などを伝えている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1	状況に応じて、責任者から、各家庭に伝えている。		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に、書面と合わせて説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	内容に応じて助言を行う。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	年1回の開催予定(未定)。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	苦情の連絡があれば、内容を把握して、早急に状況や対応策を保護者様に説明を行うことを努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	年3回の施設新聞や、イベントでの写真をLINEで発信するなど行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	6	0	外部への配布もあり、十分に取り扱い方に気をつけている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	各家庭に応じて、出来る限り適切なものをお伝えをしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	少しずつ地域の取り組みへ参加(こども商店街・作品展など)。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	施設入口に掲示。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	年2回の実施予定。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	虐待防止委員会の設置、虐待に関する研修にも積極的に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	該当する利用者がいた場合は、支援方法や目的を説明し、個別支援計画書に記載し、承諾を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	契約時、アレルギーの有無に関しての書類を提出いただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	毎月、提出してもらい、防止に努めている。	